



生乳生産、11年連続最高へ。生産抑制の影も

生乳生産は過去最高を更新する見通しも、生産抑制が影を落としている酪農現場

◆ホクレン支所別生乳受託量(2021/4～22/2)

支所(地区)	生乳受託量(トン)	前年度比(%)
帯 広	121万0329	104.5
中標津	79万4435	104.5
北 見	56万9070	103.4
釧 路	50万1048	102.2
稚 内	25万9926	100.8
旭 川	15万8390	100.5
留 萌	8万8726	99.4
苫小牧	7万4214	98.8
函 館	6万2779	99.8
倶知安	2万0292	97.8
札 幌	1万9547	100.2
岩見沢	1万6566	100.6
合 計	377万5325	103.2

ホクレンが取り扱う十勝管内の生乳受託量は、2021年4月～22年2月、前年同期比で4.5%増の121万329トンに達した。全道の3分の1を占めて、道内の生乳生産をけん引している。20年度は126万トンで、11年連続で過去最高の更新が視野に入る。

十勝の酪農は、増産を促す畜産クラスター事業の活用などで規模拡大が進んできた。昨年は、牧草や飼料用トウモロコシが良質で、順調に乳量が増加してきた。

一方、長期化するコロナ禍の影響で、牛乳・乳製品の需要が減り在庫が拡大。2月下旬の時点で、在庫はバター3万7100トンで前年比5.8%増、脱脂粉乳は9万4600トンで15%増と過去最

高水準となった。

年末年始の処理不可能乳の問題は、乳業メーカーのフル操業や消費喚起策などで大量廃棄が回避された。今後は、全国的に生乳生産が増える半面、学校の春休みやコロナ禍の臨時休校などで需要は不安定で、年度末から6月にかけては再び生乳余剰の懸念が強まっている。

22年度もこの状況は続くと思われる。道農協酪農・畜産対策本部委員会は生産目標を、これまで基本としていた3%の伸び率を1%に抑える方針。ただ、これまでの増産のアクセルを踏んできた中で生産抑制の方針転換に、酪農現場や関係者は難しい対応を迫られている。

十勝向け 特別キャンペーン実施中

お問い合わせは...担当/中村 TEL 0800(8292)4126まで

リサイクル・メイト®で自給肥料
(ふん尿)の力を見直そう

—— あなたの牧場と十勝農業のために ——

「リサイクル・メイト」は嫌気性菌主体の複合微生物群と酵素による家畜ふん尿専用の発酵促進剤です。(好気性処理施設でも使用可) 生と好気性処理のふん尿にはない、高機能な働きを持つ自給肥料にリサイクルします。



専用資材「リサイクル・メイト」による嫌気性処理

- 資材費を含めたトータルの処理コストは、好気性処理に比べ1/3の削減 **表1**
- 生ふん尿や好気性処理に比べ、悪臭の発生を強力に抑制、肥効も大病原体を伝播するハエなどの害虫発生を抑制、牛・作物の健康と品質向上に貢献 **表2**
- 宮崎大学産業動物防疫リサーチセンターの研究室での試験では、DD(趾皮膚炎)由来トレボネーマの増殖を強力に抑制することが判明
- 牛通路のすべりの原因となるぬめり(バイオフィルム)を分解除去することも確認

〔参考〕スラリー施与時のアンモニア揮散量は、施与されたアンモニア態窒素の23～55%にもなるので、窒素資源の有効利用の面からも、揮散防止は重要である。
〔草地学の基礎〕(農文協)より



株式会社ファームテック ジャパン® [本社] 北海道札幌市清田区真栄4条2丁目8-1

表1

(単位:1000円)

区 別	好気性処理 (曝気処理)	嫌気性処理 (資材添加処理)
項目		
処理資材費	0	143
電 気 料	181	26
敷 料	256	192
施設償却費	135	135
機械償却費	540	259
機械修理費	96	46
計	1,208	801

※酪農経営成牛40～50頭の試算例

〔自然浄化処理技術の実例〕(地人書館)より

表2

区 別	好気性処理 (曝気処理)	嫌気性処理 (資材添加処理)
項目		
悪臭の発生抑制	中	大
害虫の発生抑制	中	大
処理作業の効果	中	大
労力節減	小	大
敷料の節減	小	大
疾病の防止	一	大
土壌の改良	中	大
連作障害防止	中	大
塩類障害防止	中	大
生産物品質向上	中	大
ふん尿処理コスト	大	小
所要処理施設	大	小

〔自然浄化処理技術の実例〕(地人書館)より